

## RAND コーポレーション (アメリカ)

尾 藤 誠 司

RAND Corporation (以下 RAND) は南カリフォルニア州サンタモニカにある非営利研究組織であり、政策研究機関としてのその存在は、米国の中でも独特なものであるといえよう。この機関は1960年代に設立され、政府等からの資金援助の基に米国内での政策決定に関わる様々な領域における諸問題に対して、研究・分析を通して対処し、改善への努力を続けてきている。また、現在ではより広範で、国際的な研究活動を可能にするべくワシントン D.C. やニューヨーク、さらに海外にも支所をもうけている。

RAND が現在関わっている政策研究分野は、福祉から軍事まで多岐に及び、その母体も目的に応じたいくつかのセクションに分かれている。その中でも、社会保障に関連するテーマを持つセクションは RAND の研究活動の中でも大きな割合を占める。RAND Health Science Program (以下 RAND HSP) は医療サービス研究・医療政策に関する研究を主体とした活動を行っている。Institute for Civil Justice では、主に公共政策が市民にとって公平な利益をもたらすものかについての分析をするセクションである。また、RAND's Labor and Population Program は、米国における民主主義の経済的・社会的な影響についての研究等を行っている。一方、National Security Research Division の様に、軍事防衛とその技術に関する研究を行っているセクションもあり、ここには連邦政府か

ら大きなバックアップを受けている National Defence Research Institute がある。ここでは特に、社会保障と最も関連の深い RAND HSP の活動について紹介したい。

RAND HSP は Robert H. Brook 博士をその長とする研究母体であり、約100名の研究者が働いている。このプログラムに対する年間の総資金は約15億円、その約半分は政府関連機関からのものである。RAND HSP は、その研究における共通の目的として、「医療へのアクセス、医療に費やすコスト、そして医療の質に関しての豊富な知識を得る事によって、米国内のよりよい医療システム変革を推進していく。」という事をうたっており、今現在も60以上の医療サービスに関する研究プロジェクトが RAND によって進められている。

近年の急激な医療費の増加によって、現在の米国は、その政策医療を考えると、「コスト」の問題を大きく考慮せざるをえない時代に突入した。このような状況の中、政策医療に関する研究の中心となる論点は「限られた医療資源、医療費の中でどれだけ被医療者にとって効果的なサービスを提供出来るか」という事である。現行の米国医療システムの大枠内で、最大限に効果的で効率的な健康福祉政策、医療プログラムを探求し、発展させていくために、RAND は、さまざまな健康に関連する政策プログラムに関しての具体的な分析を行い、政策決定への指針

を提示し続けている。

1971年初頭より1980年代半ばまで継続的に行われていたRAND Health Insurance Experiment (HIE)<sup>2)</sup>は、RAND HSP の行った医療サービス研究の中でも最も大規模な研究の一つで、これは米国における昨今の新しい医療システム改革に多大な影響を及ぼした。第二次大戦後の米国の医療システムの歴史の中で、メディケア、メディケイドの設立とともに大きな転機となったもう一つの変化は、1980年代より、伝統的な出来高払い型 (Fee-For-Services) の医療保険制度にかわり台頭してきたいわゆるマネイジド・ケア型の保険医療提供システムである<sup>3)</sup>。米国の医療システムは、この新しい医療保険制度を医療費抑制の新機軸として受け入れる一方で、それによる医療の質や医療へのアクセスへの影響を深刻に考慮する必要がある。HIEはこの新しい前払い型の健康保険制度、特にHealth Maintenance Organization (HMO) タイプの医療提供システムについてそのアクセス、コスト、質、そしてそれらの相互関係など様々な角度からの分析を試み、現在までのHMOおよび他のマネイジド・ケア型保険制度の成熟・発展に大きく貢献した。1980年には合計約900万人であったHMO加入者は、1994年の段階で4,200万人にまで達しており、その数はなおも急速に増え続けている。RANDのあるカリフォルニア州ではいち早くマネイジド・ケア型の保険医療が成熟し広まったため、事実その総医療費の上昇率は減少し続けている。

現在のRANDが最も力を注いでいる分野の一つに、提供される医療サービスの質を評価するための基準を開発するという仕事がある。コスト抑制の波が押し寄せる米国の医療システムにとって、新しい安価な医療サービスプログラ

ムがその質にどのような影響を及ぼすかという事は医療行政を考える上において特に大きな問題となっている。そのような問題を解決していくためには、健康サービスの質・医療の適切さを客観的に評価出来るようになる事が望ましいが、Brookらは心筋梗塞のケア、子宮摘出術などに焦点をあてたその質の評価測定に関する多数のプロジェクトを行っている<sup>4)</sup>。

また、最近米国だけではなく様々な国々で注目されるようになってきたいわゆる「成果研究」にも積極的な取り組みを見せている<sup>5)</sup>。近年、医療成果として具体的に注目されている健康に関する指標としては「生活の質 (Quality of Life)」や「患者満足度 (Patient Satisfaction)」等があげられる。これらの新しい概念により医療プログラムを評価していくためには、これらの概念が具体的な客観性をもって測られる事が出来る必要があるが、RAND HSPは、これら医療成果としての新しいパラメーターを正しく評価するための測定尺度開発への努力も行っている。その中のいくつかは、成果評価の代表的な測定指標として米国内で広く使われ始めている<sup>6)</sup>。このような医療の質の評価に関する研究は、医療サービスの質の部分でこそその競争が求められるマネイジド・ケア型の保険医療プランにとって、まさに切迫して必要な知識であるといえよう。さらに注目すべき事として、マネイジド・ケア型の医療プランの浸透にともない、標準的な質を保った医療サービスを提供するため、現在米国では様々な特定の疾患・症状に対する臨床ガイドラインを作成、発表している。これらのガイドラインは、各疾患に対する医療行為の「適切さ」にその主眼をおいており、その中では治療や検査のCost-Effectivenessも考慮されている。RANDが現在まで行ってきた研究活

動の成果はこれら臨床ガイドラインの開発・改良にも大きく貢献しており、現在もいくつかの研究プロジェクトが政府管轄研究機関である AHCPH からの協力によって進められている。

研究機関としての RAND の特徴としてもう一つ興味深いものに、この機関そのものが、博士課程を修得できる大学院としての教育プログラムを持っていることがあげられる。RAND Graduate School とよばれるそのプログラムは、主に政策問題を解決するための様々な研究・分析の手法を修得させることを目的としており、その中には社会科学から数理科学に至るまで、そして量的研究から質的研究に至るまで幅広い研究手法のクラスが用意されている。また学生にとっては、米国内でも第一級の研究活動に関わりながら「On-the-job training」が出来るのはなによりの魅力であろう。このプログラムにはレジデントを終えた医師等も多数参加している。さらに教授陣スタッフは、カリフォルニア州立大学 (UCLA) の教育プログラムとも密接な関係を持っているため、豊富な英知を取捨選択しながら学びとることが出来る。

RAND が現在まで行ってきた研究は、いかなれば様々な公的政策プログラムに対して、科学という目を持って外側から審判するという役目を担ってきたといえる。今後日本の医療サービス、社会保障政策を考えていく上で RAND の様な研究機関の存在は大きな参考になるであろう。昨今日本で大きな話題となった薬物認可審査基準や、全国レベルでの予防対策等に関する政策意思決定における大きな問題点は、まさに

「医療の質」のレベルの話である。科学的な方法論に基づいて得られた政策決定についての事実や知識は、より偏見のない目で今日の医療福祉供給体制を成熟させていくための貴重な材料となるであろう。RAND のような非営利機関は、わが国の今後の福祉行政を考えていく上でも非常に興味のもたれる存在であるといえよう。

RAND へのアクセス方法は以下の通り：

住所：1700 Main Street, Santa Monica, CA 90401-3297, USA.

電話番号：1-310-393-0411

FAX：1-310-393-4818

また、RAND についてのより詳しい情報を知りたい方は、インターネット

<http://www.rand.org> へアクセスして下さい。

#### 注

- 1) The Health Sciences Program 1995 RAND.
- 2) Enthoven, AC. 1984 "The Rand experimental and economical health care", *New Eng J Med*; 310 (23): 1528-1530.
- 3) Andersen, RM. Rice, TH. Kominski, GF. 1996 *Changing the U.S. Health Care System*, Jossey-Bass Pub. San Francisco.
- 4) Bernstein, SJ et al. 1993 "The appropriateness of hysterectomy: a comparison of care in seven health plans", *JAMA*; 269 (18): 2398-2402.
- 5) Stewart, AL. Hays, RD. Ware, JE. 1988 "The MOS short-form general health survey", *Medical Care*; 26: 724-735.

(びとう・せいじ 国立東京第二病院内科医師)